

底 延 縄 漁 業 試 験

久 貝 一 成

沖繩における底延縄漁業は主に沖繩本島中南部を中心に行なわれ、中でも勝連、糸満が主体の業態である。漁法は1トン未満のいわゆる動力付クリ舟によるものが多く沿岸のリーフ地帯がその主なる漁場である。漁獲状況、隻数からみて年々かなり伸びており、1本釣漁業と共に沿岸漁業の主力をなしている。漁獲量は1968年が286.7トン、隻数は174隻（1トン未満159隻、1トン～5トン15隻）1969年が509.9トン、隻数は219隻（1トン未満184隻、1トン～5トン35隻）1970年も大体これは維持されると思う。

こういう状況からかんがみ本年度はこの利用水域に接続する深みの漁場の調査をアイザメの生息状況を確認しながら調査船「くろしお（21.44トン）」を使って沖繩南部の荒崎沖合と喜屋武崎の西南西側で2回実施したが天候の不順等もあって不調に終わった。

第1次調査（1970年2月19日～23日）

漁場は荒崎沖200m等深線以深で漁具を10鉢使用して実施した。漁獲物はレンコダイ、ハナフエダイ主体でホシザメ、ツノザメ等で釣獲率は4%でアイザメの確認も出来ず低調に終わった。水温は21.1℃で潮が強くE～SE～1.2～1.8ノットも流れ延縄がもつれて操業に支障をきたした。

漁具構成は1鉢が320mで3.5mmのクレモナ、枝縄は80cmの3分テグスで50本付け、釣針は23号～26号を使用した。

第2次調査（1970年4月21日～23日）

漁場は慶良間諸島と沖繩本島間の南側200m等深線以深で漁具12鉢を半分に分け2組にして使用した。水温20.5℃水深240m～400m釣獲魚はレンコダイ主体でオオヒメ、ヒメダイ、ハナフエダイ、カンパチ、マハダ、トラザメ、ネコザメ、ホシザメ等で釣獲率は3.5%で低調でした。レンコダイの又長は22cm～24cmで小型であった。漁具構成は第1次と同じである。

100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300
100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300

水 温	深 水	時 間	風 向
20.5	240	14:00	SE
20.5	400	16:00	SE